

科目名	ITリテラシー	単位数	2	科目コード				
授業形態	演習	対象学生		開設期	2021年/通年			
受講条件		開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	パソコン、スマートフォンなどの情報機器に関する基本理解							
授業の一般目標	パソコンの基本的な仕組みを知り、セキュリティやネットワーク構築などのパソコンを扱う際の基本的な知識を身につける。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	留学生のためのタイピング練習、留学生のためのPython入門 て(テキスト・BBC マイクロビット公式ユーザーガイド micro.bitではじめるプログラミング 第2版							
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 : コンピューターに関する基本的な知識を身につける <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 : ITのさまざまな情報を得ることにより、適切に業界でやりたいものを学べる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 : 今後IT系の専門学校に進学する際に自身がどの分野に興味をもっているのかを探ることができる <input type="checkbox"/> 態度の観点 : ITへの興味を持ち、積極的に情報収集に取り組むようにする <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点 : IT言語を身につけ、発生した事案に対して適切な処置が取れるようになる。							
授業計画(全体) :	IT知識を学ぶとともに、資料作成を通じて日本語のアウトプットをすることにより語学力の向上にもつなげる。							
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等		授業の記録				
	回数に合わせて、行数を増やしてください							
第1,2回	コンピューターの基礎							
第3,4回	コンピューターの種類							
第5,6回	ハードウェアの構成							
第7,8回	メールの仕組み							
第9,10回	ソフトウェアの役割							
第11,12回	タイピング練習							
第13,14回	エクスプローラーの使い方							
第15,16回	ショートカットについて							
第17,18回	ファイル管理について							
第19,20回	キーボードの練習							
第21,22回	ネットワークとインターネット							
第23,24回	検索エンジンとブラウザの構成							
第25,26回	PCの容量と2進数について							
第27,28回	PC内での数値の扱い方							
第29,30回	期末試験							
成績評価方法								
(1) 単元ごとに確認テストを課す。 (2) 長期休暇で宿題を課す。								
単位認定: 出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト	○	○		○			80%	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品	○		○		◎		20%	D :59点未満 未修得
演習								
出席								
担当教員	小島 敬子			実務経験紹介	ホームページアドレス			

科目名	ITリテラシー	単位数	2	科目コード				
授業形態	演習	対象学生		開設期	半期			
受講条件		開設時期	後期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	Pythonの基礎を理解し、扱ってみることでプログラミングのできることを知り興味を抱かせる							
授業の一般目標	プログラミングの基礎的な知識を演習を通して学ぶ。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	留学生のためのタイピング練習、留学生のためのPython入門 て(テキスト・BBC マイクロビット公式ユーザーガイド micro:bitではじめるプログラミング 第2版							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 : コンピューターに関する基本的な知識を身につける								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 : ITのさまざまな情報を得ることにより、適切に業界でやりたいものを学べる。								
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 : 今後IT系の専門学校に進学する際に自身がどの分野に興味をもっているのかを探ることができる								
<input type="checkbox"/> 態度の観点 : ITへの興味を持ち、積極的に情報収集に取り組むようにする								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点 : IT言語を身につけ、発生した事案に対して適切な処置が取れるようになる。								
授業計画(全体) :								
IT知識を学ぶとともに、資料作成を通じて日本語のアウトプットをすることにより語学力の向上にもつなげる。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等			授業の記録			
	回数に合わせて、行数を増やしてください							
第1,2回	Pythonとは							
第3,4回	四則演算・変数							
第5,6回	組み込み型文字列							
第7,8回	組み込み型リスト							
第9,10回	組み込み型タプル							
第11,12回	組み込み型集合							
第13,14回	条件分岐 if文							
第15,16回	繰り返し for文							
第17,18回	関数							
第19,20回	クラス							
第21,22回	モジュール							
第23,24回	パッケージ							
第25,26回	入出力							
第27,28回	例外							
第29,30回	期末試験							
成績評価方法								
(1)単元ごとに確認テストを課す。 (2)長期休暇で宿題を課す。								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト	○	○		○			80%	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品	○		○		◎		20%	D :59点未満 未修得
演習								
出席								
担当教員	小島 敬子			実務経験紹介	ホームページアドレス			

科目名	ITリテラシー			単位数	2	学科	国際ITビジネス科	
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	通期	
区分	必須			開設時期	通期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	<ul style="list-style-type: none"> ・Windowsの基本操作 ・Word、Excel、PowerPoint、情報倫理の勉強 							
授業の一般目標	日本の会社や大学で、日本語を使用して資料が作れるようになる。							
受講条件								
事前学習について（テキスト・参考書等）	留學生のためのWord入門、留學生のためのExcel入門、留學生のためのPowerPoint 留學生のためのWordドリルブック、留學生のためのExcelドリルブック							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	基本的なOSソフトを使用して何ができるのかを知る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	積極的にソフトを日常的に活用して日々の改善にあてられるようにする							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ビジネススキルを身につけることで勤務意欲を刺激する							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	知識の収集に対して積極的になる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	必要な場面に応じて、必要な資料を作成できるようになる。							
授業計画（全体）								
IT知識を学ぶとともに、資料作成を通じて日本語のアウトプットをすることにより語学力の向上にもつなげる。								
授業計画（授業単位）								
回	主題	授業内容					備考	
第1,2回	自己紹介							
第3,4回	タイピング練習							
第5,6回	タイポグラフィー製作							
第7,8回	フォルダーの作成と保存							
第9,10回	クラウド共同制作							
第11,12回	デジタル単位、CPUやメモリーについて							
第13,14回	タブとリーダー、段落について							
第15,16回	表の作成、画像の作成							
第17,18回	図形の作成							
第19,20回	テキストボックス、地図の作成							
第21,22回	ビジネスカタログ、ビジネスロゴの作成							
第23,24回	パッケージ							
第25,26回	料理メニューの表作成							
第27,28回	テーマに沿ったメニュー表作成							
第29,30回	期末試験							
成績評価方法								
(1) 単元ごとに確認テストを課す。								
(2) 長期休暇で宿題を課す。								
(3) 期末に定期試験を課す。								
単位認定: 出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○			◎		80%	秀 (S): 100点~90点
小テスト	○	○	○	○			20%	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B): 79点~70点
授業態度								可 (D): 69点~60点
発表・作品								不可 (E): 59点以下
演習								
出席								
担当教員	吉野			実務経験紹介	ホームページアドレス			

科目名	ITリテラシー		単位数	2	学科	国際ITビジネス科		
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必須		開設時期	通期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	<ul style="list-style-type: none"> ・Windowsの基本操作 ・Word、Excel、PowerPoint、情報倫理の勉強 							
授業の一般目標	日本の会社や大学で、日本語を使用して資料が作れるようになる。							
受講条件								
事前学習について（テキスト・参考書等）	留學生のためのWord入門、留學生のためのExcel入門、留學生のためのPowerPoint 留學生のためのWordドリルブック、留學生のためのExcelドリルブック							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	基本的なOSソフトを使用して何ができるのかを知る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	積極的にソフトを日常的に活用して日々の改善にあてられるようにする							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ビジネススキルを身につけることで勤務意欲を刺激する							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	知識の収集に対して積極的になる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	必要な場面に応じて、必要な資料を作成できるようにする。							
授業計画（全体）								
IT知識を学ぶとともに、資料作成を通じて日本語のアウトプットをすることにより語学力の向上にもつなげる。								
授業計画（授業単位）								
回	主題	授業内容					備考	
第1,2回	PowerPointの基本操作							
第3,4回	アニメーション基礎							
第5,6回	アニメーションオーディオの挿入							
第7,8回	アニメーション応用編							
第9,10回	自己PRスライド作成							
第11,12回	自己PRデータ作成							
第13,14回	パワーポイントテキスト演習							
第15,16回	パワーポイントテキスト演習							
第17,18回	パワーポイントプレゼンテーション							
第19,20回	動画作成							
第21,22回	エクセルドリルブック							
第23,24回	回答データ作成							
第25,26回	ドリルブック回答作成							
第27,28回	アンケートの作成							
第29,30回	期末試験							
成績評価方法								
(1) 単元ごとに確認テストを課す。								
(2) 長期休暇で宿題を課す。								
(3) 期末に定期試験を課す。								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○			◎		80%	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	○	○			20%	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点~70点
授業態度								可 (D):69点~60点
発表・作品								不可 (E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	吉野			実務経験紹介	ホームページアドレス			

科目名	上級文法 I		単位数	2	科目コード			
授業形態		対象学生	1年生	開設期	半期			
区分		開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	7月のJLPTに合格できる文法能力を身につける							
授業の一般目標	各セッションの文法のそれぞれの違いを理解しながら、理解だけでなく運用できるようにする							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	どんなときどう使う日本語表現文型500(アルク出版)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	正しい文法の理解を身につける							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	文法を理解し、文法問題を正確に解けるようにする							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	文法を身につけることによって日本語での表現意欲をもたせる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	理解するだけでなく運用できるようになることが理解の到達であると認識させる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	適切な文法能力を身につけ表現の幅を広げる							
授業計画 (全体)	N2、N3グループでそれぞれ本日より文法を決める。⇒自主勉にて文法を理解⇒ペアで会話を作って発表 (教師はビデオ撮影)							
授業計画 (授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	文法導入	行為の対象						
第2回	文法導入	目的・手段・媒介						
第3回	文法導入	終点・起点・限界・範囲						
第4回	文法導入	時点・場面						
第5回	文法導入	時間的同時性・時間的前後関係						
第6回	文法導入	進行・相関関係						
第7回	文法導入	付帯・非付帯						
第8回	文法導入	限定・非限定・付加						
第9回	文法導入	比較・程度・対比						
第10回	文法導入	判断の立場・評価の視点						
第11回	文法導入	基準						
第12回	文法導入	関連・対応						
第13回	文法導入	無関係・無視・例外						
第14回	文法導入	例示						
第15回	文法導入	程度の強調						
第16回	文法導入	話題						
第17回	文法導入	逆接・理由						
第18回	文法導入	仮定条件・確定条件						
第19回	文法導入	逆接仮定条件						
第20回	文法導入	不可能・可能・困難・容易						
第21回	演習	6t						
第22回	演習							
第23回	演習							
第24回	演習							
第25回	演習							
第26回	演習							
第27回	模擬試験	模擬試験						
第28回	模擬試験	模擬試験						
第29回	試験前復習							
第30回	試験前復習							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○		○			秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度				○				可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席								
担当教員	川 岸			実務経験紹介				

科目名	上級文法Ⅱ	単位数	2	科目コード				
授業形態		対象学生	1年生	開設期	半期			
区分		開設時期	後期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	12月のJLPTに合格できる文法能力を身につける							
授業の一般目標	各セッションの文法のそれぞれの違いを理解しながら、理解だけでなく運用できるようにする							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	どんなときどう使う日本語表現文型500(アルク出版) TRY! N2(アスク出版)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	正しい文法の理解を身につける							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	文法を理解し、文法問題を正確に解けるようにする							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	文法を身につけることによって日本語での表現意欲をもたせる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	理解するだけでなく運用できるようになることが理解の到達であると認識させる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	適切な文法能力を身につけ表現の幅を広げる							
授業計画 (全体)	N2、N3グループでそれぞれ本日やる文法を決める。⇒自主勉にて文法を理解⇒ペアで会話を作って発表 (教師はビデオ撮影)							
授業計画 (授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	文法導入・理解	スタッフ募集のお知らせ						
第2回	文法の運用	スタッフ募集のお知らせ						
第3回	文法導入・理解	転任のあいさつ						
第4回	文法の運用	転任のあいさつ						
第5回	文法導入・理解	ホテルの仕事						
第6回	文法の運用	ホテルの仕事						
第7回	文法導入・理解	台風情報						
第8回	文法の運用	台風情報						
第9回	文法導入・理解	就職活動						
第10回	文法の運用	就職活動						
第11回	問題演習	パワードリル、N2 TRY、N2総まとめなどの問題演習部分からコピーを配布して演習実践						
第12回	問題演習							
第13回	問題演習							
第14回	問題演習							
第15回	問題演習							
第16回	問題演習							
第17回	模擬試験	模擬試験						
第18回	模擬試験							
第19回	文法の運用	苦労した5年間						
第20回	文法導入・理解	苦労した5年間						
第21回	文法の運用	オオカミと生態系						
第22回	文法導入・理解	オオカミと生態系						
第23回	文法の運用	取引先で						
第24回	文法導入・理解	取引先で						
第25回	文法の運用	食べ放題						
第26回	文法導入・理解	食べ放題						
第27回	文法の運用	満員電車						
第28回	文法導入・理解	満員電車						
第29回	試験前対策							
第30回	試験前対策							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○		○			秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度				○				可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席								
担当教員	川 寄			実務経験紹介				

科目名	読解 I		単位数	2	科目コード			
授業形態	座学		対象学生	1年	開設期	半期		
区分			開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	①7月のJLPTにおいて自身が目標とする級に合格できる力を身につける。							
授業の一般目標	各々のレベル、ペースに合った内容を履修して問題対応能力を身につけながら、作文において必要な論理構成の組み立てを学んでいく。							
受講条件								
予習学習について (テキスト・参考書等)	N3読解完全マスター(スリーエーネットワーク) N2読解完全マスター(スリーエーネットワーク)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	様々な内容を読みながら語彙と文法の知識を広げる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	論理構成の組み立て方を学ぶ							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	様々な内容の文章を読み、日本文化への意欲関心を高める							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	長文の読解でも途切れない集中力をつける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	主語、述語、修飾語、接続詞、指示語をつかみ、的確に正解を選ぶ能力を身につける。							
授業計画 (全体)								
各自自習の形で自分のレベルに合った演習をするが、「間違えない」ことを優先する。そのため、「わからない」と思ったら教師を呼ぶ。もし間違ったらどうして間違えたか考える。最後は要約をする。教員は教室を循環し、内容確認にあたる。								
授業計画 (授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	基礎力の向上	書き言葉に慣れる						
第2回	基礎力の向上	読むスピードを上げる						
第3回	基礎力の向上	読むスピードを上げる						
第4回	色々な文章を読む	メール、手紙						
第5回	色々な文章を読む	メモ、指示文						
第6回	色々な文章を読む	意見文、説明文						
第7回	色々な文章を読む	エッセイ						
第8回	広告・お知らせなどから情報を探す	商品の広告、募集広告						
第9回	広告・お知らせなどから情報を探す	パンフレット、お知らせ①						
第10回	広告・お知らせなどから情報を探す	お知らせ②、薬の飲み方						
第11回	広告・お知らせなどから情報を探す	グラフ、メール						
第12回	実践問題	内容理解(短文)						
第13回	実践問題	内容理解(中文)						
第14回	実践問題	内容理解(長文)						
第15回	テスト前演習							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			○			秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度			○					可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席				○				
担当教員	川崎、横山			実務経験紹介				

科目名	読解Ⅱ		単位数	2	科目コード			
授業形態	座学		対象学生	1年	開設期	半期		
区分			開設時期	後期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	①12月のJLPTにおいて自身が目標とする級に合格できる力を身につける。 ②基礎的な読解力を身につけ、日本のマンガなどを楽しめるようになる。							
授業の一般目標	各々のレベル、ペースに合った内容を履修して問題対応能力を身につけながら、作文において必要な論理構成の組み立てを学んでいく。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	N3読解完全マスター(スリーエーネットワーク) N2読解完全マスター(スリーエーネットワーク)							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	様々な内容を読みながら語彙と文法の知識を広げる							
□ 思考・判断の観点	論理構成の組み立て方を学ぶ							
□ 関心・意欲の観点	様々な内容の文章を読み、日本文化への意欲関心を高める							
□ 態度の観点	長文の読解でも途切れない集中力を付ける。							
□ 技能・表現の観点	主語、述語、修飾語、接続詞、指示語をつかみ、的確に正解を選ぶ能力を身につける。							
授業計画 (全体)								
各自自習の形で自分のレベルに合った演習をするが、「間違えない」ことを優先する。そのため、「わからない」と思ったら教師を呼ぶ。もし間違ったらどうして間違えたか考える。最後は要約をする。教員は教室を循環し、内容確認にあたる。								
授業計画 (授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	文章の仕組みを理解する	対比。他のものと比べる						
第2回	文章の仕組みを理解する	他の言葉で言いかえる						
第3回	文章の仕組みを理解する	ほかのものに例える						
第4回	文章の仕組みを理解する	疑問文を使って話題を提示する						
第5回	文章の仕組みを理解する	自分の意見であることを示す						
第6回	問いを解く技術を身につける	指示語を問う						
第7回	問いを解く技術を身につける	「誰が」「何が」「何を」などを問う						
第8回	問いを解く技術を身につける	下線部の意味を問う						
第9回	問いを解く技術を身につける	理由を問う						
第10回	問いを解く技術を身につける	例を問う						
第11回	情報を探し出す	広告						
第12回	情報を探し出す	お知らせ						
第13回	情報を探し出す	説明書き						
第14回	情報を探し出す	表・リスト						
第15回	テスト前復習							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			○			秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート			○					良 (B) : 79点~70点
授業態度								可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席				○				
担当教員	川崎、横山			実務経験紹介				

科目名	聴解 I		単位数	2	科目コード			
授業形態	座学		対象学生	1年	開設期	半期		
区分		開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	①7月のJLPTIにおいて自身が目標としている級に合格できる力を身につける。 ②日本人との会話でしっかり意味を聞き取り、面接に対応できる力をつける。							
授業の一般目標	各々のレベル、ペースに合った内容を履修しながら、聞き取れなかった音を把握し、その音を体現できるレベルにする。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	聴解完全マスターN3(スリーエーネットワーク) 聴解完全マスターN2(スリーエーネットワーク)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	聴解をしながら語彙・文法の知識を広げていく。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	イントネーションや表現方法から話者の気持ち、会話の展開を読めるようにする。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	聴解力の向上により、会話意欲を向上させる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	受け身の姿勢にならず、自ら発音の会得をしようとする姿勢を身につけさせる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	音をしっかりと聞き取り日本語能力試験に合格できるだけの聴解力を身につける。							
授業計画 (全体)								
各自の電子端末に教科書の音源をダウンロードし、イヤホンを使い演習を行う。聞こえなかった音はスクリプトにマーカーをつけさせる。教員は教室循環を行い学生の出来をチェックしておき、最後に聞こえなかった音を再確認する。								
授業計画 (授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	電子端末に慣れる	音声のダウンロード、クラスルームの設定、授業方針の説明						
第2回	音声の特徴になれる	1-A 間違えやすい音						
第3回	音声の特徴になれる	1-B アクセントやイントネーション						
第4回	音声の特徴になれる	1-C 似ている数字						
第5回	音声の特徴になれる	音の変化、音の高さや長さ						
第6回	「発話表現」のスキルを学ぶ	状況説明文を聞き分ける						
第7回	「発話表現」のスキルを学ぶ	許可や依頼の発話を聞き分ける						
第8回	「発話表現」のスキルを学ぶ	許可や依頼の表現						
第9回	「発話表現」のスキルを学ぶ	注意すべき動詞						
第10回	「発話表現」のスキルを学ぶ	問題を知らせる・助けを申し出る表現に注意する						
第11回	「即時応答」のスキルを学ぶ	1-A 敬語						
第12回	「即時応答」のスキルを学ぶ	1-B 間違えやすい表現						
第13回	「即時応答」のスキルを学ぶ	2-A 会話でよく使われる表現						
第14回	「即時応答」のスキルを学ぶ	2-B 決まった答え方						
第15回	「即時応答」のスキルを学ぶ	3 間接的な答え方に注意する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			○		70%	秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度			○				20%	可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) :59点以下
演習								
出席				○			10%	
担当教員	川崎、横山			実務経験紹介				

2024年度 シラバス

科目名	聴解Ⅱ		単位数	2	科目コード			
授業形態	座学		対象学生	1年	開設期	半期		
区分			開設時期	後期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	①12月のJLPTに自身が目標とする級に合格する力を身につける。 ②日本人の自然な会話の内容を理解し、メディアを楽しむ力をつける。							
授業の一般目標	各々のレベル、ベースに合った内容を履修しながら、聞き取れなかった音を把握し、その音を体現できるレベルにする。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	聴解完全マスターN3(スリーエーネットワーク) 聴解完全マスターN2(スリーエーネットワーク)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	聴解をしながら語彙・文法の知識を広げていく。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	イントネーションや表現方法から話者の気持ち、会話の展開を読めるようにする。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	聴解力の向上により、会話意欲を向上させる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	受け身の姿勢にならず、自ら発音の会得をしようとする姿勢を身につけさせる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	音をしっかりと聞き取り日本語能力試験に合格できるだけの聴解力を身につける。							
授業計画(全体)								
各自の電子端末に教科書の音源をダウンロードし、イヤホンを使い演習を行う。聞こえなかった音はスクリプトにマーカーをつけさせる。教員は教室循環を行い学生の出来をチェックしておき、最後に聞こえなかった音を再確認する。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	音声の特徴に慣れる	似ている音の聞き分け						
第2回	音声の特徴に慣れる	音の変化や縮約形						
第3回	「即時応答」のスキルを学ぶ	最初の文を理解する						
第4回	「即時応答」のスキルを学ぶ	返事の文を考える						
第5回	「即時応答」のスキルを学ぶ	確認問題						
第6回	「課題理解」のスキルを学ぶ	すべきことを理解する						
第7回	「課題理解」のスキルを学ぶ	最初にすることを考える						
第8回	「課題理解」のスキルを学ぶ	条件に合う情報を聞き取る						
第9回	「ポイント理解」のスキルを学ぶ	話し手の意図を考え、必要な情報がどうかを判断する						
第10回	「ポイント理解」のスキルを学ぶ	言い換えに注意する						
第11回	「ポイント理解」のスキルを学ぶ	多くの情報から必要な情報を拾う						
第12回	「概要理解」のスキルを学ぶ	例と例をまとめる言葉を聞き分けて、話題をつかむ						
第13回	「概要理解」のスキルを学ぶ	キーワードを関連付けて、話の構造をつかむ						
第14回	「概要理解」のスキルを学ぶ	文を関連付けて、話の主題をまとめる						
第15回	「統合理解」のスキルを学ぶ	2種類の話を整理する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			○		70%	秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度			○				20%	可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席				○			10%	
担当教員	川崎、横山			実務経験紹介				

科目名	ビジネス日本語運用 I		単位数	2	科目コード			
授業形態	座学		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分			開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	希望する進学先に合格する							
授業の一般目標	次の進学・就職に向け、必要な作文力と面接に必要な会話力を向上させる。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	TRY! N2(アスク出版)など							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	面接に必要な語彙、文法を習得する。							
□ 思考・判断の観点	適切な受け答えが可能になる							
□ 関心・意欲の観点	自己分析を行い、個性的な意見を出せるようにする							
□ 態度の観点	面接に必要な服装、マナーを身につける							
□ 技能・表現の観点	正しい発音と表現で理解しやすい日本語の運用ができるようにする							
授業計画 (全体)								
基本的に授業の主題を考え、作文にして文字におこし、その後会話の練習を行う。								
授業計画 (授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
1, 2	自己紹介	最終目的地と毎日のノルマ・目標を決めさせる						
3, 4	クラスの役割決め	教室内での役割をみんなで話し合って決める						
5, 6	今年の目標を書く	最低目標と最高目標を書く						
7, 8	将来の夢	将来の夢について考える						
9, 10	将来の夢	将来の夢を他人に話してみる						
11, 12	自分の国の町を紹介する	自分の国の紹介文を書いてみる						
13, 14	自分の国の町を紹介する	自分の国を友達に紹介する						
15, 16	自己分析	自分の長所と短所について書いてみる						
17, 18	自己分析	自分の長所と短所を話し、他人の長所について尋ねる						
19, 20	最近のニュース	最近のニュースで気になることについて考える						
21, 22	最近のニュース	最近のニュースの解決策を話し合う						
23, 24	日本についてどう思うか	日本についてどう思うかをまとめる						
25, 26	日本についてどう思うか	日本についての意見を話し合う						
27, 28	志望理由書	なぜこの学校に行きたいかを話してみる						
29, 30	志望理由書	なぜこの学校に行きたいかを話してみる						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎			◎			秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度			○				20%	可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席				○			10%	
担当教員	川崎、齋藤、横山、山本			実務経験紹介				

科目名	ビジネス日本語Ⅱ		単位数	2	科目コード			
授業形態	座学		対象学生	1年	開設期	半期		
区分		開設時期	後期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	様々な状況下において、適切な受け答えができる会話力を身につける							
授業の一般目標	テーマだけを与えて、何も考えずに即興で会話を作っているようにする 日本文化を学び、日本人の心情を理解し、日本人との会話に幅を持たせる。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	上級へのとびら(くろしお出版)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	面接に必要な語彙、文法を習得する。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	適切な受け答えが可能になる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	日本文化を知ることで日本での生活の関心を高める							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日本文化を理解し、会話において相手に好感をもたれる態度をとれる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	日本人の心情を理解し、文化を尊重した会話ができる。							
授業計画 (全体)								
テーマを与え、学生間で会話をさせる。その会話を電子端末を使い録画をし、その会話を全員で振り返っていく。								
授業計画 (授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
1, 2	日本の地理	地理、名所、名物、行事、祭り、昔話						
3, 4	日本語のスピーチスタイル	スピーチレベルの使い分け、男女の言葉、 言葉の省略と短縮と倒置、書き言葉と話し言葉電話の会話、 Eメールを出す						
5, 6	日本のテクノロジー	依頼する／感謝する						
7, 8	日本のスポーツ	相談する						
9, 10	日本の食べ物	説明する／考えを言う						
11, 12	日本人と宗教	グラフを使って説明する／自分の意見を言う						
13, 14	日本のポップカルチャー	困った状況を説明する／苦情や不平を言う						
15, 16	日本の伝統芸能	物語を紹介する						
17, 18	日本の教育の現状	ほめる／ほめられる						
19, 20	日本の便利な店	情報を求める／伝える						
21, 22	日本の歴史	過去の事柄について話す						
23, 24	日本の伝統工芸	ものの作り方を紹介する						
25, 26	日本人と自然	話を発展させる(追加質問をする/感想を言う)						
27, 28	日本の政治	意見を言う/賛成をする/反対をする						
29, 30	世界と私の国の未来	意見を言う/賛成をする/反対をする						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎			◎			秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度			○				20%	可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席				○			10%	
担当教員	川崎、齋藤、横山、山本			実務経験紹介				

科目名	上級文法 I	単位数	2	科目コード	
授業形態	講義	対象学生		開設期	
区分		開設時期		教員実務経験対象	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	7月のJLPTにて自身が目標とするJLPTに合格できるだけの語彙力をつける。				
授業の一般目標	語彙を覚え、正しい選択を選べるだけでなく、更にそれを運用できるようにする。				
受講条件					
事前学習について (テキスト・参考書等)	N2語彙総まとめ(アスク出版) N3語彙総まとめ(アスク出版)				
授業の到達目標					
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	語彙の意味を知り、正しい使用法を知る。				
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	適切な場面で適切に運用できるようにする。				
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	語彙を増やすことに喜びを感じ、主体的に語彙力の向上に努める。				
<input type="checkbox"/> 態度の観点	テストの結果においても優良な成績を取る。				
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	語彙力が強化されることにより日本語表現の幅が広がり、また聴解・読解力の向上につなげる。				
授業計画 (全体)					
導入期間、試験対策期間、運用練習期間をきっちりわけて学生に目標を明示していく。					
① 共同で学習する単語をリスト化する ② それぞれGoogle翻訳にあてる。例文の使用法と相違ないか確認。 ③ 覚える ④ 自分でテスト ⑤ 例文作成してみる					
授業計画 (授業単位)					
回	主 題	N2	N3	備 考	
第1回	語彙の定着	1W1D,2D	1W1D2D	基礎固め	
第2回	語彙の定着	1W3D4D	1W3D4D	基礎固め	
第3回	語彙の定着	1W5D6D	1W5D6D	基礎固め	
第4回	語彙の定着	2W1D2D	2W1D2D	基礎固め	
第5回	語彙の定着	2W3D4D	2W1D2D	基礎固め	
第6回	語彙の定着	2W5D6D	2W5D6D	基礎固め	
第7回	語彙の定着	3W1D2D	3W1D2D	基礎固め	
第8回	語彙の定着	3W3D4D	3W3D4D	基礎固め	
第9回	語彙の定着	3W5D6D	3W5D6D	基礎固め	
第10回	語彙の定着	4W1D2D	4W1D2D	基礎固め	
第11回	語彙の定着	4W3D4D	4W3D4D	基礎固め	
第12回	語彙の定着	4W5D6D	4W5D6D	基礎固め	
第13回	語彙の定着	5W1D2D	5W1D2D	基礎固め	
第14回	語彙の定着	5W3D4D	5W3D4D	基礎固め	
第15回	語彙の定着	5W5D6D	5W5D6D	基礎固め	
第16回	語彙の定着	6W1D2D	6W1D2D	基礎固め	
第17回	語彙の定着	6W3D4D	6W3D4D	基礎固め	
第18回	語彙の定着	6W5D6D	6W5D6D	基礎固め	
第19回	問題演習	1W7D、2W7D	1W7D、2W7D	演習	
第20回	問題演習	3W7D、4W7D	3W7D、4W7D	演習	
第21回	問題演習	5W7D、6W7D	5W7D、6W7D	演習	
第22回	問題演習	パワードリル 第30、29回	パワードリル 第30、29回	演習	
第23回	問題演習	パワードリル 第30、29回	パワードリル 第30、29回	演習	
第24回	模擬試験	N2模試	N3模試	演習	
第25回	模擬試験	N2模試	N3模試	語彙力拡充	
第26回	語彙の運用	1Wの会話	1Wの会話	語彙力拡充	
第27回	語彙の運用	2Wの会話	2Wの会話	語彙力拡充	
第28回	語彙の運用	3Wの会話	3Wの会話	語彙力拡充	
第29回	語彙の運用	4Wの会話	4Wの会話	テスト前対策	

科目名	語彙Ⅱ	単位数	2	科目コード	
授業形態	座学	対象学生	1年	開設期	半期
区分		開設時期	後期	教員実務経験対象	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	①12月のJLPTに合格できる語彙力を身につける ②身につけた語彙を使って幅広い会話ができる運用力を身につける				
授業の一般目標	語彙を覚え、正しい選択を選べるだけでなく、更にそれを運用できるようにする。				
受講条件					
事前学習について (テキスト・参考書等)	N2語彙総まとめ(アスク出版) N3語彙総まとめ(アスク出版)				
授業の到達目標					
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	語彙の意味を知り、正しい使用方法を知る。				
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	適切な場面で適切に運用できるようにする。				
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	語彙を増やすことに喜びを感じ、主体的に語彙力の向上に努める。				
<input type="checkbox"/> 態度の観点	テストの結果においても優良な成績を取る。				
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	語彙力が強化されることにより日本語表現の幅が広がり、また聴解・読解力の向上につなげる。				
授業計画 (全体)					
N2語彙を学習していく。N2を既に勉強している学生には例文作成を事前課題として課す。授業では事前課題で書いた例文を添削しながら使用方法を確認し、その後暗記させ、テストを行う。また、マインドマップを使い語彙の連想を作っていく。					
授業計画 (授業単位)					
回	主 題	授 業 内 容		備 考	
第1回	語彙の定着	1W1D,2D		1W1D2D	基礎固め
第2回	語彙の定着	1W3D4D		1W3D4D	基礎固め
第3回	語彙の定着	1W5D6D		1W5D6D	基礎固め
第4回	語彙の定着	2W1D2D		2W1D2D	基礎固め
第5回	語彙の定着	2W3D4D		2W1D2D	基礎固め
第6回	語彙の定着	2W5D6D		2W5D6D	基礎固め
第7回	語彙の定着	3W1D2D		3W1D2D	基礎固め
第8回	語彙の定着	3W3D4D		3W3D4D	基礎固め
第9回	語彙の定着	3W5D6D		3W5D6D	基礎固め
第10回	語彙の定着	4W1D2D		4W1D2D	基礎固め
第11回	語彙の定着	4W3D4D		4W3D4D	基礎固め
第12回	語彙の定着	4W5D6D		4W5D6D	基礎固め
第13回	問題演習	N2問題		N3問題	問題演習
第14回	問題演習	N2問題		N3問題	問題演習
第15回	模擬試験	N2模擬試験		N3模擬試験	模擬試験
第16回	模擬試験	N2模擬試験		N3模擬試験	模擬試験
第17回	語彙の定着	5W1D2D		5W1D2D	基礎固め
第18回	語彙の定着	5W3D4D		5W3D4D	基礎固め
第19回	語彙の定着	5W5D6D		5W5D6D	基礎固め
第20回	語彙の定着	6W1D2D		6W1D2D	基礎固め
第21回	語彙の定着	6W3D4D		6W3D4D	基礎固め
第22回	語彙の定着	6W5D6D		6W5D6D	基礎固め
第23回	語彙の定着	7W1D2D		7W1D2D	基礎固め
第24回	語彙の定着	7W3D4D		7W3D4D	基礎固め
第25回	語彙の定着	7w5D6D		7w5D6D	基礎固め
第26回	語彙の定着	8W1D2D		8W1D2D	基礎固め
第27回	語彙の定着	8W3D4D		8W3D4D	基礎固め
第28回	語彙の定着	8W5D6D		8W5D6D	基礎固め
第29回	試験前対策	試験前対策		試験前対策	テスト前対策

科目名	上級漢字 I		単位数	2	科目コード	
授業形態	講義		対象学生		開設期	
区分			開設時期		教員実務経験対象	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	7月のJLPTにて自身が目標とするJLPTに合格できるだけの漢字力をつける。					
授業の一般目標	漢字の読み書きを覚えるだけでなく、更にその漢字にまつわる語彙を覚え運用できるようにする。					
受講条件						
事前学習について (テキスト・参考書等)	N2総まとめ漢字(アスク出版) N3総まとめ漢字(アスク出版)					
授業の到達目標						
□ 知識・理解の観点	漢字の構造を知り、正しい読み書きを知る。					
□ 思考・判断の観点	使用法を誤らず、正しく使える。					
□ 関心・意欲の観点	漢字の成り立ちなどを覚え、学習の意欲を持つ。					
□ 態度の観点	テストの結果においても優良な成績を取る。					
□ 技能・表現の観点	漢字の意味を知ることによって読解力が上がり、正しく美しく書けることで作文の印象を向上させる。					
授業計画(全体)						
導入期間、試験対策期間、運用練習期間をきっちりわけて学生に目標を明示していく。						
①共同で学習する単語をリスト化する ②それぞれGoogle翻訳にあてる。例文の使用法と相違ないか確認。 ③覚える ④自分でテスト ⑤例文作成してみる						
授業計画(授業単位)						
回	主 題	授 業 内 容			備 考	
第1回	基礎固め	1W1D,2D		1W1D2D		
第2回	基礎固め	1W3D4D		1W3D4D		
第3回	基礎固め	1W5D6D		1W5D6D		
第4回	基礎固め	2W1D2D		2W1D2D		
第5回	基礎固め	2W3D4D		2W1D2D		
第6回	基礎固め	2W5D6D		2W5D6D		
第7回	基礎固め	3W1D2D		3W1D2D		
第8回	基礎固め	3W3D4D		3W3D4D		
第9回	基礎固め	3W5D6D		3W5D6D		
第10回	基礎固め	4W1D2D		4W1D2D		
第11回	基礎固め	4W3D4D		4W3D4D		
第12回	基礎固め	4W5D6D		4W5D6D		
第13回	基礎固め	5W1D2D		5W1D2D		
第14回	基礎固め	5W3D4D		5W3D4D		
第15回	基礎固め	5W5D6D		5W5D6D		
第16回	基礎固め	6W1D2D		6W1D2D		
第17回	基礎固め	6W3D4D		6W3D4D		
第18回	基礎固め	6W5D6D		6W5D6D		
第19回	基礎固め/演習慣れ	7W1D2D		パワードリル文字語彙 第1、2回		
第20回	基礎固め/演習慣れ	7W3D4D		パワードリル文字語彙 第3、4回		
第21回	基礎固め/演習慣れ	7W5D6D		パワードリル文字語彙 第5、6回		
第22回	基礎固め/演習慣れ	8W1D2D		パワードリル文字語彙 第7、8回		
第23回	基礎固め/演習慣れ	8W3D4D		パワードリル文字語彙 第9、10回		
第24回	基礎固め/演習慣れ	公式模試 第1回		公式模試 第1回		
第25回	基礎固め/演習慣れ	8W5D6D		パワードリル文字語彙 第11回、12回		
第26回	基礎固め/演習慣れ	公式模試 第2回		公式模試 第2回		
第27回	基礎固め/演習慣れ	パワードリル文字語彙 第1回~3回		パワードリル文字語彙 第13、14回		
第28回	基礎固め/演習慣れ	パワードリル文字語彙 第4回~6回		パワードリル文字語彙 第15、16回		
第29回	試験前対策	試験前対策		試験前対策		
第30回	試験前対策	試験前対策		試験前対策		
成績評価方法						
単位認定	総合成績60点、出席率80%以上					
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他
定期試験	◎	○				
小テスト						
宿題授業外レポート					○	
授業態度						
発表・作品			○			
演習						
出席				○		
担当教員	川崎、齋藤		実務経験紹介			

2024年度 シラバス

科目名	漢字Ⅱ		単位数	2	科目コード	
授業形態	座学		対象学生	1年	開設期	半期
区分			開設時期	後期	教員実務経験対象	
授業概要 (目的、目標とする資)	①12月のJLPTに合格できる漢字力を身につける ②一般的な新聞や雑誌をフリガナがなくとも凡そ理解できるようになる					
授業の一般目標	N2総まとめの二日分の漢字を暗記していく。					
受講条件						
事前学習について (テキスト・参考書)						
授業の到達目標						
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	漢字の構造を知り、正しい読み書きを知る。					
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	使用法を誤らず、正しく使える。					
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	漢字の成り立ちなどを覚え、学習の意欲を持つ。					
<input type="checkbox"/> 態度の観点	テストの結果においても優良な成績を取る。					
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	漢字の意味を知ることによって読解力が上がり、正しく美しく書けることで作文の印象を向上させる。					
授業計画 (全体)						
意味はスプレッドシートを利用したGoogle翻訳で確認する。マインドマップを使って既習の漢字と新たに学ぶ漢字を覚えるなど暗記をスムーズに行う。						
授業計画 (授業単位)						
回	主 題	授 業 内 容		備 考		
第1回	基礎固め	1W1D,2D		1W1D2D		
第2回	基礎固め	1W3D4D		1W3D4D		
第3回	基礎固め	1W5D6D		1W5D6D		
第4回	基礎固め	2W1D2D		2W1D2D		
第5回	基礎固め	2W3D4D		2W1D2D		
第6回	基礎固め	2W5D6D		2W5D6D		
第7回	基礎固め	3W1D2D		3W1D2D		
第8回	基礎固め	3W3D4D		3W3D4D		
第9回	基礎固め	3W5D6D		3W5D6D		
第10回	基礎固め	4W1D2D		4W1D2D		
第11回	基礎固め	4W3D4D		4W3D4D		
第12回	基礎固め	4W5D6D		4W5D6D		
第13回	基礎固め	N2問題		N3問題		
第14回	基礎固め	N2問題		N3問題		
第15回	基礎固め	N2模擬試験		N3模擬試験		
第16回	基礎固め	N2模擬試験		N3模擬試験		
第17回	基礎固め	5W1D2D		5W1D2D		
第18回	基礎固め	5W3D4D		5W3D4D		
第19回	基礎固め／演習慣れ	5W5D6D		5W5D6D		
第20回	基礎固め／演習慣れ	6W1D2D		6W1D2D		
第21回	基礎固め／演習慣れ	6W3D4D		6W3D4D		
第22回	基礎固め／演習慣れ	6W5D6D		6W5D6D		
第23回	基礎固め／演習慣れ	7W1D2D		7W1D2D		
第24回	基礎固め／演習慣れ	7W3D4D		7W3D4D		
第25回	基礎固め／演習慣れ	7w5D6D		7w5D6D		
第26回	基礎固め／演習慣れ	8W1D2D		8W1D2D		

科目名	ビジネス・マナー		単位数	1	学科	国際ITビジネス科		
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	接客対応の基礎『心づかい』『言葉づかい』などの実務知識を覚える。 基本的な接客マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。							
授業の一般目標	サービス接客検定3級合格							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	サービス接客検定 受験ガイド3級 改訂版、サービス接客検定 問題集							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. サービス接客とは何かについて、接客業を上手く熟するための課題が説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域についての内容を、活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. サービス接客に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. ペット業界(接客業)の中で、サービス接客の必要性を考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、サービス業であるペット業界(他分野職含む)へ就職した時、顧客に対して実践ができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1回	授業開始について サービス接客接客とは何か	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 サービスの意味、接客とは何かを覚える 効果的な自己紹介の仕方ができる						
第2回	サービススタッフの資質(1)	必要とされる要件 明るさと誠実さ・適切な判断と表現・身だしなみについてを覚える						
第3回	サービススタッフの資質(2)	従業要件 良識をもつ、適切な判断と表現、清潔感についてを覚える						
第4回	専門知識(1)	サービス知識 サービスの意義・機能・種類を覚える						
第5回	専門知識(2)	従業知識 商業用語・経済用語を覚える						
第6回	一般知識	社会常識を覚える、時事問題を知る						
第7回	対人技能(1)	一般的な人間関係を築く						
第8回	対人技能(2)	接客知識、対人心理が理解できる 接客者としてマナーを心得る						
第9回	対人技能(3)	話し方、接客用語を覚える 提示・説明の仕方を覚える						
第10回	対人技能(4)	服装 接客者としての適切な服装を装う						
第11回	実務技能(1)	問題処理。環境整備についてを覚える						
第12回	実務技能(2)	金品管理・社交儀礼の業務ができる						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	サービス接客検定合格のポイント、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	金森 孝子			実務経験紹介				

科目名	コミュニケーション技法		単位数	1	学科	国際ITビジネス科		
授業形態	講義		対象学生		開設期	通期		
区分	必須		開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	IT業務遂行上想定される場面にに対し、適切に対応できる日本語運用能力を身につける。							
授業の一般目標	1. 日本での就職活動を遂行できるようにする 1. 各業務場面で適切に対応できるようにする 1. 仕様書を読めるようになる							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	「しごとの日本語 IT業務編」(アルク 村上吉文著)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点：	IT業界の語彙を覚え、適切に使用できるようにする							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点：	各場面において適切な言動の選択ができるようになる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点：	自身の将来像を具体的にイメージできる教材の使用により、日本語とITの知識意欲を刺激する。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点：	日本で働くとはどういうことを学び、日ごろのアルバイトから勤務態度を改善していく。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点：	適切な語彙と文法の選択により日本人とのコミュニケーションをスムーズに行う。							
授業計画 (全体)								
ビジネスの各場面において知識の導入後ロールプレイを行い、適切な日本語の運用を学び、語学力の向上につなげる。								
授業計画 (授業単位)								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	仕事に取り組む心構え							
第2回	仕事の進め方							
第3回	職場のルール							
第4回	基本動作							
第5回	言葉遣いの基本①							
第6回	言葉遣いの基本②							
第7回	言葉遣いの基本③							
第8回	電話対応①							
第9回	電話対応②							
第10回	電話対応③							
第11回	来客対応①							
第12回	来客対応②							
第13回	訪問のマナー							
第14回	交際業務							
第15回	まとめと総括							
成績評価方法								
(1) 期末試験においてテストを課す								
(2) 長期休暇においてレポート課題を課す								
単位認定: 出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	◎	◎		90%	秀 (S): 100点~90点
小テスト								優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート			○				10%	良 (B): 79点~70点
授業態度			○					可 (D): 69点~60点
発表・作品								不可 (E): 59点以下
演習								
出席								
担当教員	金森 孝子			実務経験紹介				